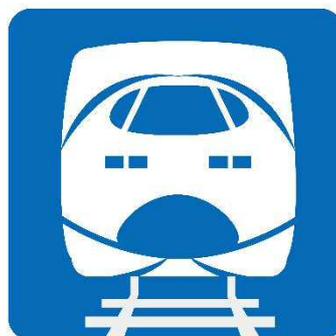

総社市総合交通戦略

【概要版】



令和2年3月

総社市

1. はじめに

(1) 計画策定の背景と目的

本市が目指す「全国屈指の福祉文化先駆都市（総社市総合計画）」の実現に向けて、誰もが自由に移動できる公共交通の整備と持続可能性の確保は非常に重要な問題となっています。そこで、将来のまちづくりと連携し、公共交通の更なる利便性向上を図ることで、財政上の負担は生じるものの、外出機会の増加や移動利便性の向上により、健康増進や暮らしやすさの向上、地域活性化、さらには低炭素社会の実現など、市民にとってプラスの相乗効果に導いていく必要が生じています。

このような認識のもと、この度、総社市におけるこれからの地域公共交通のあり方や目標、取組みを定めた「総社市総合交通戦略」を策定いたしました。

今後は本計画のもと、まちづくりの各分野と連携しつつ、市民・来訪者の双方にとって使いやすく、将来にわたって持続可能な公共交通サービスの形成を進めてまいります。

(2) 計画の位置付け



(3) 計画の区域

本計画は、総社市全域を対象とします。

(4) 計画の対象期間

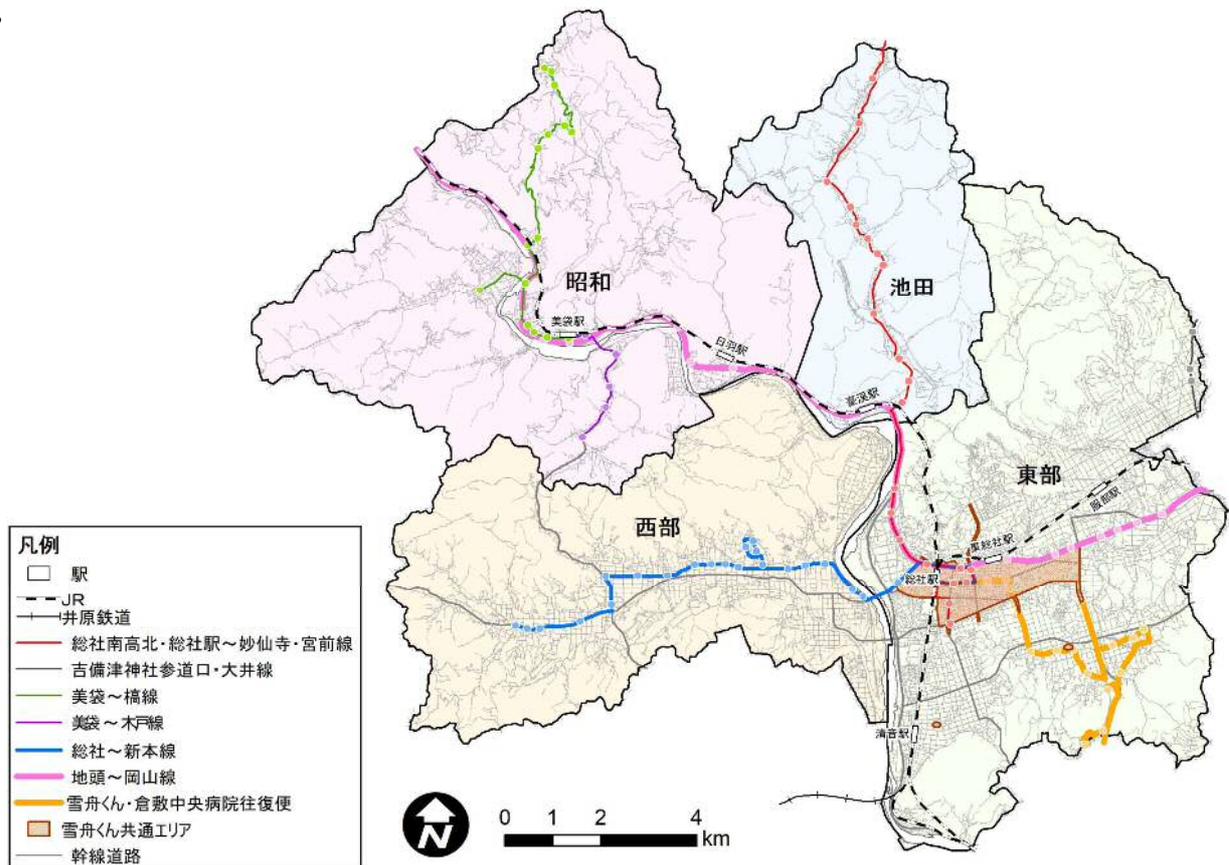


2. 地域公共交通をめぐる課題

- 人口** ・平成 27 年の人口は約 6.7 万人だが、令和 27 年には約 6.3 万人まで減少（将来推計）
- 高齢化** ・平成 27 年の高齢化率は 27.5%だが、令和 27 年には 32.7%まで上昇（将来推計）
・雪舟くんの利便性向上やバリアフリー化の推進など、高齢社会の移動環境づくり
- 都市施設** ・都市施設が集中する拠点エリアへのアクセス性向上と中心部における回遊性向上
・都市施設が集中する中心部で、安心して移動ができ、暮らすことのできる空間整備
- 観光** ・点在する見所ある観光施設へのアクセス性向上
・「吉備路自転車道」の有効活用
- 道路** ・東西方向の路線に比べ、脆弱な南北方向の道路（整備）
- 鉄道** ・基幹となる鉄道の運行本数増加、快適性向上やアクセス性向上
・バリアフリー化、駐輪場・駐車場整備など、鉄道の利便性向上
- バス** ・各鉄道駅へのアクセス性向上（定時型路線など公共交通導入の検討）
- 雪舟くん** ・予約型乗合方式の「雪舟くん」は、平日の 8 時～16 時台のみ運行
・予約が集中する時間帯を中心に生じる予約お断りの解消
・運行日や運行台数、時間帯の拡充、利便性の向上などニーズに合った運行改善
- 外出状況** ・地域と連携して柔軟な運行が可能な新たな公共交通の導入

現在の総社市における公共交通ネットワーク

鉄道は JR 伯備線、JR 桃太郎線及び井原鉄道井原線の 3 路線が運行されています。一方、バス路線は運行路線や運行本数が限られています。そのため、予約型乗合方式による総社市新生活交通「雪舟くん」が市内中心部の共通エリアと市内 4 つの区域（東部、西部、池田、昭和）に分けて、市内全域をカバーする形で運行しています。



3. 本計画の理念と目標

(1) 本計画の理念（総社市の公共交通の理念）

暮らしやすいまちの実現に向けた地域交通体系の構築
～「全国屈指の福祉文化先駆都市」を支える交通まちづくり～

(2) 本計画における目標

目標 1 将来にわたり、安心快適に移動できる！
～各鉄道駅への二次交通の充実による安心・快適な移動の確保～

将来にわたる拠点間の移動手段の確保や各鉄道駅への二次交通の充実を目指すとともに、中心部では安心・快適な移動空間の整備を行うことでにぎわいのある魅力的なまちづくりの礎とします。

目標 2 市内外への移動を充実・強化する！
～本市の基幹・鉄道の強化による移動性向上と交流拡大～

JR 桃太郎線（20.4km）のLRT化により、総社～岡山間のアクセス向上を図るとともに、生活圏が隣接する地域において、市域を越えた交通体系の構築を図っていきます。

目標 3 誰もが外出しやすい環境を整備する！
～ユニバーサルデザイン化による使いやすさ向上と利用促進～

鉄道、バス、雪舟くんといった身近な公共交通や福祉交通が全ての人にとって使いやすいものとなるために、施設のバリアフリー化はもとより、交通情報の充実を図ることで、誰もが外出しやすい環境を整備します。

目標 4 観光客が楽しんで観光地を周遊することができる！
～レンタサイクルの充実や総社流観光二次交通の導入による観光文化の振興～

市内バス・タクシー事業者や観光関連団体等との連携により、レンタサイクルの充実や、総社流の新たな観光二次交通システム導入により、観光客が楽しんで自由に周遊できる環境を整えていきます。

目標 5 みんなが主体となって考え、改善する！
～市民・交通事業者・民間企業・行政の連携による公共交通の継続的改善～

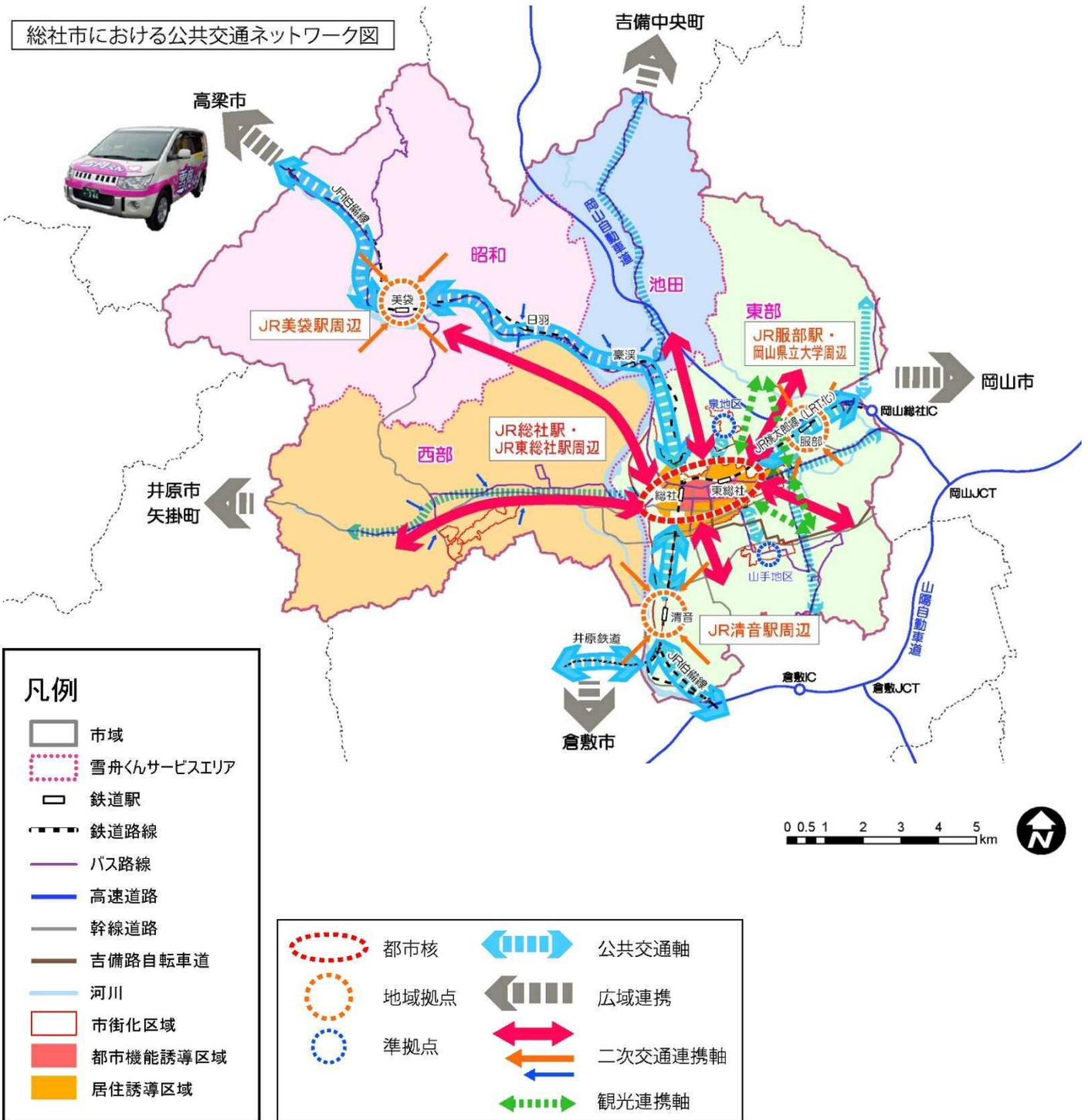
市民・交通事業者・民間企業・行政が三方一両損の精神を持ち、それぞれの好循環に繋げることができるよう協働で公共交通の再生・活性化に取り組んでいきます。

目標 6 中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！
～幹線道路や歩行者空間の整備により地域の経済活動や健康づくり、交通安全を支え

魅力的なまちづくりと公共交通の利用を連動させるため、商業施設等と連携し、公共交通利用者向けの特典・サービスを拡充していくとともに、安心・安全な交通環境の確保に向けた幹線道路・歩行空間の整備を推進します。また、関係機関と連携し、自動運転の公共交通への導入等について検討を進めていきます。

(3) 本戦略における将来の公共交通ネットワーク

鉄道を軸として、総社市新生活交通「雪舟くん」や新たな二次交通により、まず駅まで、さらに中心部まで結ぶ公共交通ネットワークの構築を目指します。



4. 目標実現に向けた事業内容と業績評価指標

(1) 目標実現に向けた事業イメージ

6つの目標の実現に向け、実施すべき事業のイメージを示します。

目標1. 将来にわたり、安心快適に移動できる！

事業対象 雪舟くん

①運行システムの改善

- 居住誘導区域やJR桃太郎線LRT化に伴う共通エリアの見直しや最適なエリア区分への改善を進めます。
- スマホ予約や迎への到着予定時刻の見える化、また、目的地への到着予定時刻を指定できるなど利便性向上につながる予約システムの導入を図ります。



②運行台数や料金等の見直し

- 予約お断りゼロを目指すため、運行台数、運行時間帯、委託料、さらに将来にわたり持続可能な利用料金について、市民の声を踏まえ関係事業所等と見直しの協議を進めます。

事業対象 運行体系の見直し

①運行体系の見直し

- 各鉄道駅への二次交通の充実及び中心部における回遊性向上を図るため、定時型路線の導入等について、路線数や経路、予約型、国県補助など現行の路線の統廃合を含め、制度設計のための検討協議を進め、運行体系の見直しを図ります。



目標2. 市内外への移動を充実・強化する！

事業対象 鉄道

①JR桃太郎線のLRT化

- 総社～岡山間のアクセス向上を図るため、JR桃太郎線のLRT化による鉄道の機能強化を図ります。



②JR桃太郎線LRT化による新駅設置

- 新駅を設置し、駅の利用圏域を拡大することで、鉄道の利便性向上を図ります。

■駅への行きやすさ



目標4. 観光客が楽しんで観光地を周遊することができる！

事業対象 観光客用移動手段

①総社流観光二次交通の導入

- 鬼ノ城や備中国分寺、宝福寺などの観光文化施設にインバウンドを含め県内外から多くの観光客に訪れてもらえるようJR「観光タクシ」等観光タクシーの充実や総社流観光二次交通の導入について、関係機関と協働し実施します。



②レンタサイクルの推進

- 吉備路自転車道の沿線に点在する史跡や古墳、自然、日本遺産に指定された史跡などを楽しんで周遊することができるよう、レンタサイクルの充実を図ります。

目標3. 誰もが外出しやすい環境を整備する！

事業対象 駅

①バリアフリー化の推進

- 駅等公共交通施設が、誰にとっても利用しやすいものとなるようバリアフリー化を推進します。

②駅前広場等の整備

- 各駅やJR桃太郎線LRT化による新駅において、駅前広場や自転車、歩行者等も安全に利用できるアクセス道路の整備等により、より乗り継ぎしやすくアクセス性の高い駅を目指します。

③パーク＆ライド駐車場/サイクル＆ライド駐輪場の整備

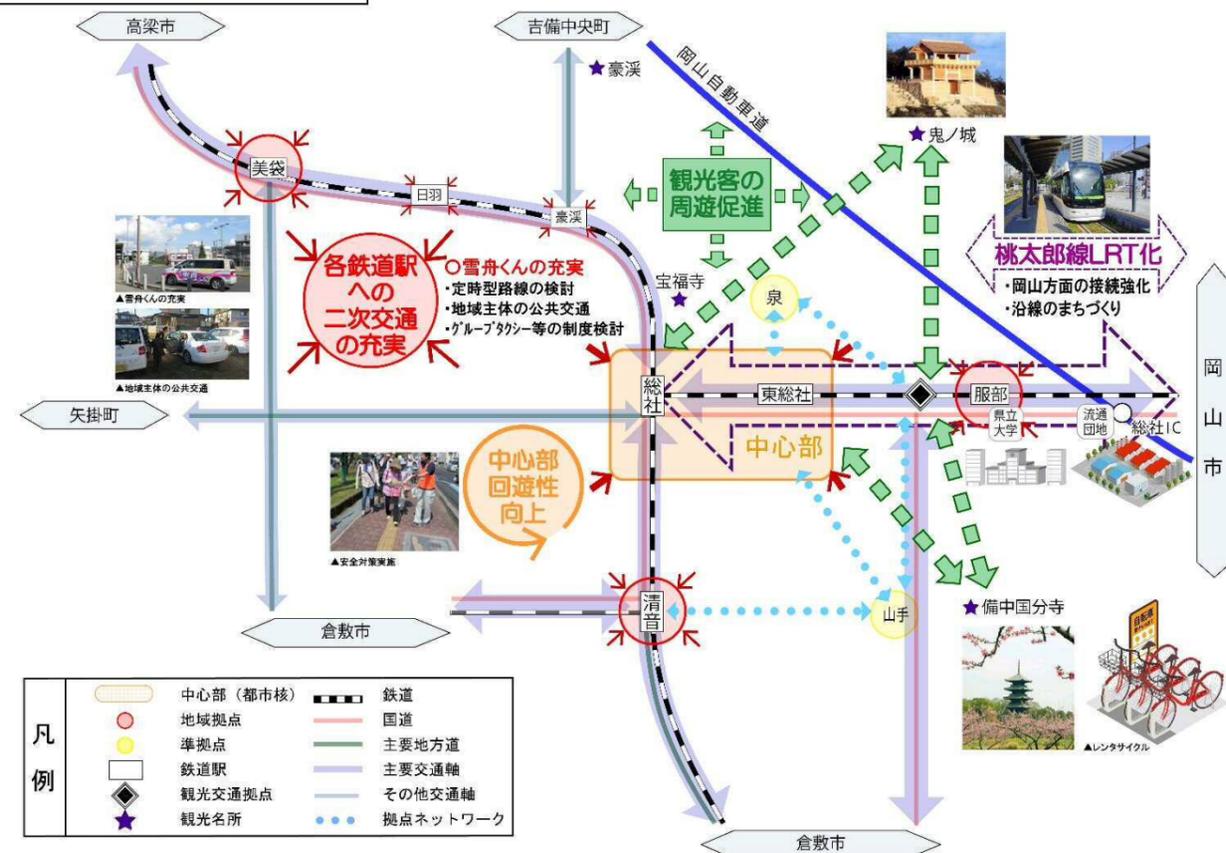
- 各駅やJR桃太郎線LRT化による新駅において、パーク＆ライド駐車場/サイクル＆ライド駐輪場の整備等により、より利便性の高い駅を目指します。

④公共交通情報の充実

- 施設案内表示、公共交通運行ダイヤ、乗り場情報の充実やリアルタイム運行情報・所要時間の見える化など、誰もが目的地に出かけやすい環境整備を図ります。あわせて、総社を訪れる方々のため、観光や沿線上のPRマップなどの充実を図ります。



総社市総合交通戦略イメージ図



目標5. みんなが主体となって考え、改善する！

事業対象 交通環境改善

①総社市地域公共交通会議の充実

- 計画の着実な実施、事業進捗の管理や適切な見直しを年1回以上行うために、市民や公共交通事業者等で施策内容を協議する地域公共交通会議を継続的に開催します。

②利用者満足度の向上

- 限られた予算の中で効率的・効果的に公共交通の改善を行うために、現在の利用者やこれからの利用者となる市民ニーズをしっかりと把握するための公共交通満足度市民アンケート調査を実施します。

事業対象 新たな地域公共交通の創設

①地域主体の公共交通の環境整備

- 買い物支援等地域が主体となって運行する公共交通の創設について要望のある地域に対して、制度や届け出等手続き方法を指導するとともに、PRを進め、他地域でも導入しやすい環境を整備します。

②グループでのタクシー利用環境の整備検討

- 市民が利用しやすいタクシーを目指すため、地域住民の要望に応じ、タクシーの共同利用ができる環境整備についての検討を行います。



目標6. 中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！

事業対象 歩道、道路

①商業施設等との連携

- 魅力的なまちづくりと公共交通の利用を連動させるため、商業施設等と連携し、公共交通利用者向けの特典・サービスを拡充していきます。

②南北方向整備予定路線の整備

- 市の東西に国道180号バイパスが整備される中、道路ネットワークの構築による都市内移動の円滑化や中心市街地の渋滞緩和を図るため、南北方向整備予定路線の整備を進めます。
※南北方向の整備予定路線<削部三須線・(仮称)東総社駅泉本線、(仮称)上原富原線等>

③歩行・自転車空間の整備

- 交通弱者である子ども、高齢者、障がい者の方にとっても、安全・安心な交通環境の確保のため、歩行・自転車空間の整備を進めます。
※歩道整備路線<中央井手本線・元町井手本線>



④自動運転の検討推進

- 自動運転技術の本格的な実用化に向け、公共交通への導入やカーシェアリング、グリーンスローモビリティといった交通施策について、関係機関と連携し検討を進めます。



実施主体 (◆:主, ◇:関連)				業績評価指標	現況値(H30年度)	目標値 (中間目標値)
行政	市民 地域	企業	交通 事業者			
◆	◇		◆	登録者数	18,767人	26,000人 (R6年度 22,700人)
◆	◇		◆	利用者数	214人/日	250人/日 (R6年度 230人/日)
◆	◇		◆	予約お断り件数	約15件/日	0件 (R6年度 0~5件/日)
◆	◇		◆	利用者数 (JR西日本：総社市内7駅 井原鉄道：総社市内2駅)	JR西日本：14,926人/日 井原鉄道：1,626人/日 (井原鉄道：H26年度)	JR西日本：15,000人/日 井原鉄道：1,650人/日
◆	◇		◆			
◆	◇		◆	鉄道利用満足度	29.8% (平成26年 第2次総社市総合計画策 定のためのアンケート調査結果 鉄道・バス満足度)	50%
◆	◇		◆			
◆	◇		◆			
◆	◇		◆			
◆		◇	◆	観光用二次交通運行件数	129件/年 (総社市観光協会企画分は R1年度の件数を計上)	250件/年 (R6年度 175件)
◆		◆	◇	レンタサイクル利用者数	3,269人/年	4,300人/年 (R6年度 3,800人)
◆	◇	◇	◆	総社市地域公共交通会議の 開催回数	年1回	年4回 (計画期間中)
◆	◆	◇	◆	新規創設数	新規	10団体 (R6年度 5団体)
◆		◇	◆	商業施設等との連携	1企画/年 (R1年度)	2企画/年
◆				南北方向整備予定路線の 整備率	0%	100% (R6年度 50%)
◆	◇			市民の外出率	平日：78.4% 休日：60.6% (H27年度)	平日：80.0% 休日：70.0%

実施スケジュール ● 検討・調整: 施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施(→)
● 実 施: 施策実施(⇒)
● 継 続: 計画期間外(概ね10年以降)も検討・調整や施策実施を継続(■→)

5. 計画の推進に向けて

(1) 計画の評価・改善

① PDCAサイクルによるスパイラルアップ

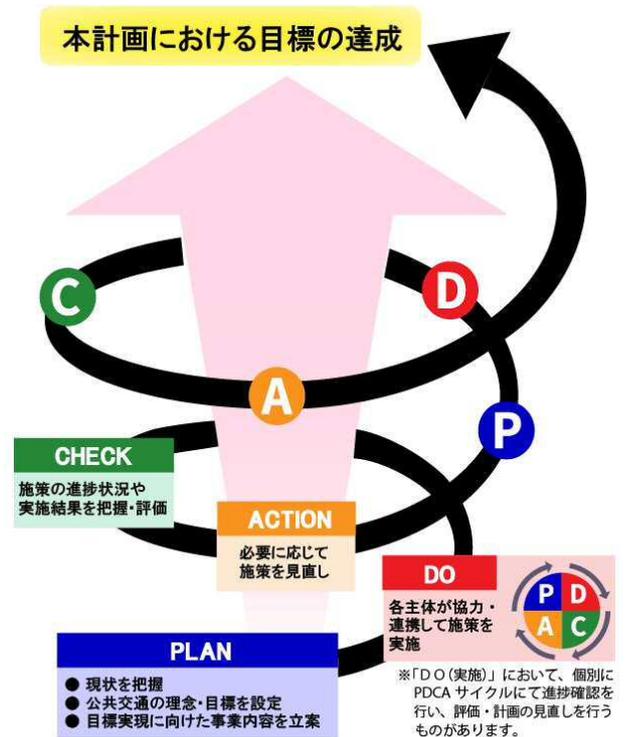
本計画は、計画を策定し記載事業を実施したら終了というものではなく、「みんなが親しみ、みんなで育む地域公共交通」の実現のためには、事業の進捗状況や効果を検証し、計画の内容を絶えず見直していく必要があります。

策定後は、「計画（PLAN）」「実施（DO）」「評価（CHECK）」「改善（ACTION）」の4段階のサイクル（PDCAサイクル）により、市民や公共交通事業者の意見を反映させながら、より地域のニーズに合った公共交通へと改善を進めていきます。

そこで、「総社市地域公共交通会議」を活用し、各事業の進捗状況について、毎年、把握を行い、必要に応じて計画の改善を図るとともに、中間年度には計画の見直しを行うこととします。また、計画見直しの状況は随時公開し、市民との情報共有を図ります。

② 評価・改善のスケジュール

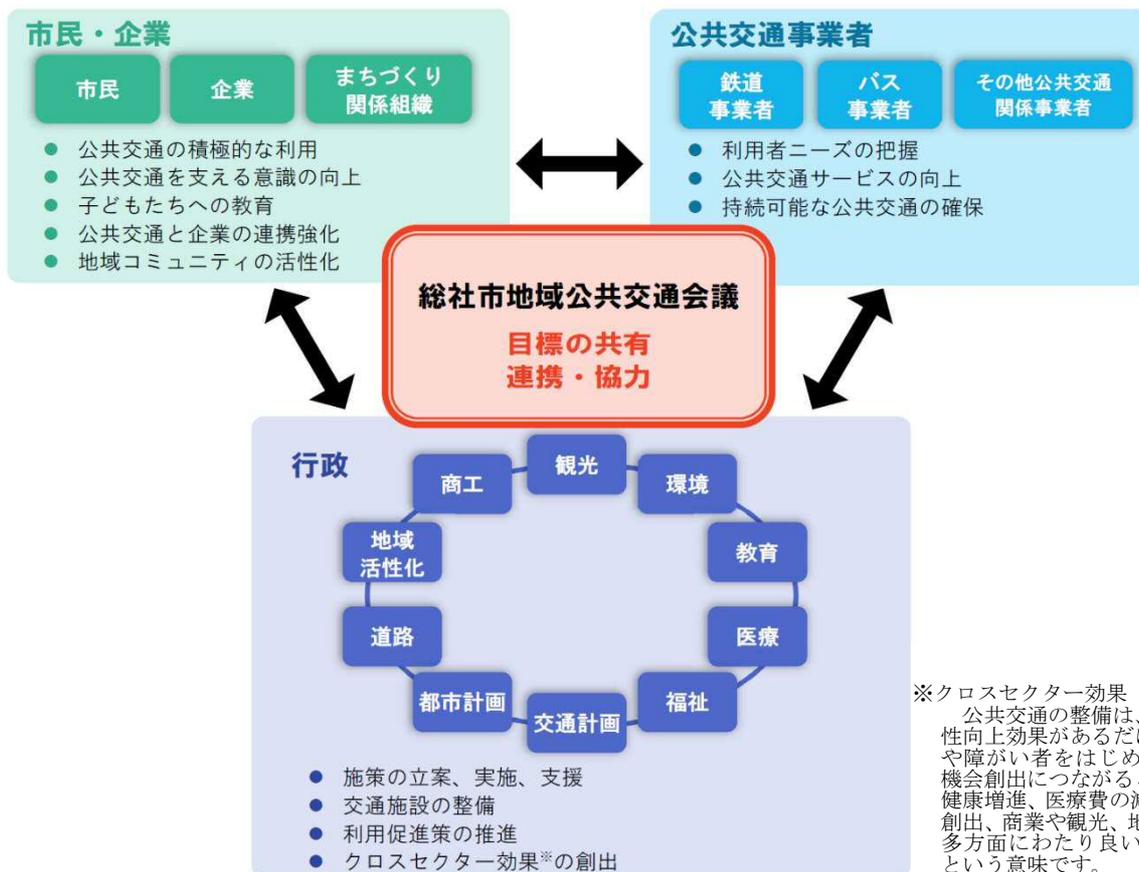
進捗状況及び効果の評価は毎年行い、その評価結果を踏まえた上で、必要に応じて5年経過後（中間時）に事業内容の見直しを行います。また、10年後の計画期間満了時には、本計画の改定を行います。



(2) 計画の推進体制

本計画は、市民・企業、公共交通事業者及び行政の三者で目標を共有し、各自がそれぞれの役割を果たしつつ、相互に連携・協力しながら推進します。

また、庁内においては、交通関係部局のみでなく、観光、福祉、環境などの各部局が連携し、全庁横断的な協力のもとで計画を推進します。



※クロスセクター効果

公共交通の整備は、単に交通の利便性向上効果があるだけでなく、高齢者や障がい者をはじめ市民全体の外出機会創出につながることから、市民の健康増進、医療費の減少、雇用機会の創出、商業や観光、地域の活性化など多方面にわたり良い効果をもたらすという意味です。

総 社 市 総 合 交 通 戦 略
【 概 要 版 】

令和2年3月発行

岡山県 総社市 市民生活部 交通政策課

〒719-1192

岡山県総社市中央 1-1-1

TEL:0866-92-8249 / FAX:0866-93-9479

E-mail:kotsu@city.soja.okayama.jp